

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

<p>(1) で設定した目標に関する進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 早期卒業制度の利用を引き続き促し、2008年3月には6名が認められ、うち1名は経済学研究科に進学、他の5名はジョイント・ディグリー制度を利用して他学部へと進学した。2. 引き続き11月末および2月末の2回の入学試験を実施し、また入試問題のガイドラインを本研究科ホームページ上で公表している。3. 一般学生に対しても入試問題のガイドラインを本研究科ホームページ上で公表し、経済学を学んでいない学生でも入試準備をすることで、基礎知識を身につけて入学できるように促している。また問題作成担当教員以外の教員による試験問題の事前チェックも行なっている。4. 英語のみによる試験および面接は未だに実施できていないが、引き続き英語力のみで解答できるような問題を試験問題を含める工夫を行なっている。5. 国際機関との協力に基づく外国人留学生の受け入れについては、実現できていないが、提携大学からの外国人留学生の受け入れを引き続き行なっている。なお、学生の募集のターゲットを明確にするべきであるという第三者評価に関しては、現状の学部レベルでの専任教員当たり在籍学生数の多さ、および英語による講義が可能な教員数を考えると、全方位的に様々な学生をターゲットに多様な施策を行なうことは現実的ではなく、一般学生および社会人学生の確保と教育内容の充実に重点を置いて進めざるを得ないのが実態である。 <p>(2) の具体的施策に関する進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 研究演習および必修の語学の講義を通じて、大学院入試説明会のPRを行い、一般学生と外国人学生に対する入試説明会を実施している。2. 2008年3月に「経済学ワークショップ」を学内で開催し、他大学教員をコメンテーターとして迎え、本学大学院生の報告に加えて他大学の大学院生による報告も交えた学術研究交流を行なった。本研究科の活動を外部に紹介する機会としても重要であり、今後も継続して実施する予定である。3. 社会人学生に対する入学試験を、引き続き2月末にも実施している。
--

学内第三者評価

<p>進捗状況報告より、それぞれの施策が目標に向かって着実に進んでいるものと認められる。ジョイントディグリーについても実績があがっており、引き続き、その成果が期待される。</p>
<p>なお、学外委員からは以下の意見があった。 早期卒業制度の実績ができてきているなど、学生の受け入れ、教育に対して、積極的な取り組みを進める点が評価できる。</p>